

# 令和3年度(2021年度)真珠養殖漁場における真珠母貝の成長

佐野聡哉・井戸本純一

## 1. 目的

県内の淡水真珠養殖漁場の状況を把握するために、母貝の成長および水質のモニタリングを行った。

## 2. 方法

主要な養殖漁場である西の湖、堅田内湖、赤野井湾において、2か月に1度、真珠母貝の殻長および体重を測定した。令和3年度は、令和元年7月から垂下している3歳貝(n=23, 24, 13)と令和3年5月に新たに垂下した2歳貝(n=25, 25, 25)を対象とした。

また、植物プランクトン量を評価するために漁場水中のクロロフィル a(以下 Chl-a)量を20 $\mu$ m以上と未満に分けて測定した。西の湖は毎月(12月欠測)、堅田内湖と赤野井湾は概ね2か月に1度測定した。

## 3. 結果

令和3年度は、西の湖において7月に3歳貝1個体、9月に2歳貝1個体が死亡した。成長については、2歳貝と3歳貝のいずれにおいても、殻長と体重ともに堅田内湖、赤野井湾、西の湖の順に良好であった(図1、2)。

3歳貝の殻長の推移(図1)をみると、赤野井湾と西の湖は垂下を始めた年(1歳時)の成長が堅田内湖と比較してかなり遅く、その後赤野井湾は堅田内湖との差が徐々に縮まったのに対し、西の湖は差が縮まらなかった。

母貝の餌の量の指標になるとされるChl-a(<20 $\mu$ m)量は、堅田内湖が5月、9月、11月に他2漁場よりも高い値を示した(図3)。一方でChl-a( $\geq$ 20 $\mu$ m)は、赤野井湾で7月に、西の湖で6月から10月に高い値を示した(図4)が、これは、大量発生した藍藻に由来するもので、特に西の湖では顕著に、母貝の成長に負の影響を与えたものと考えられる。

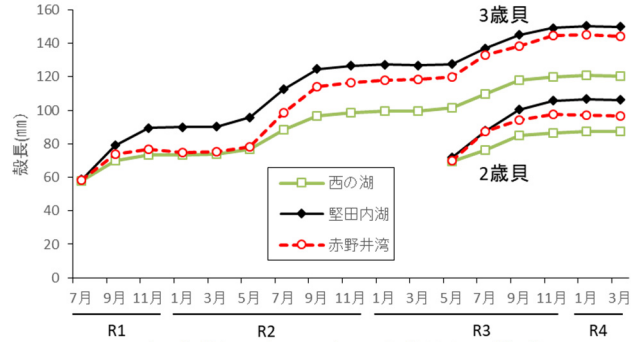


図1 各漁場における平均殻長の推移

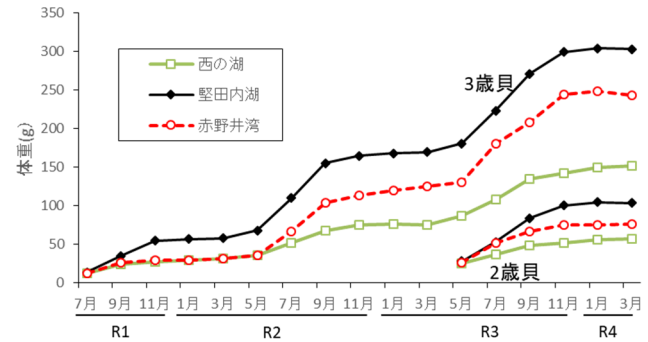


図2 各漁場における平均体重の推移

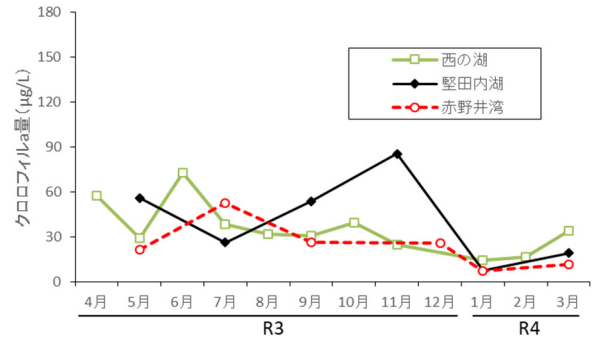


図3 各漁場のChl-a量(<20 $\mu$ m)

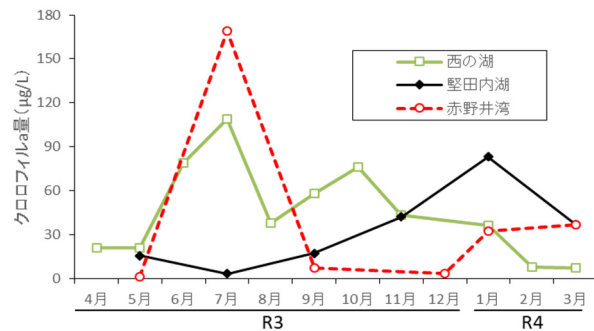


図4 各漁場のChl-a量( $\geq$ 20 $\mu$ m)

(原水のChl-a量から<20 $\mu$ mのChl-a量を減じて算出)